

ポスター

ポスター17

薬剤情報システム

2017年11月23日(木) 10:05 ～ 11:05 L会場（ポスター会場2）（12F ホワイエ）

**[4-L-2-PP17-6] レセコン標準の NSIPS®を用いた調剤データの再構築及び
考察**

桑原 望, 神野 統尚, 本間 丈士, 西本 圭一, 堀口 雅巳（望星薬局）

【背景・目的】平成28年10月、今までシステムベンダーと共に独自開発を行ってきたレセプトコンピュータ（以下、前レセコン）から市販のレセプトコンピュータ（以下、パッケージ）へ切り替えた。これは、近年の保険医療制度や調剤報酬の複雑化が主な理由である。切り替えを検討する過程において、パッケージは点数計算、レセプト請求に特化しているものの、パッケージ標準の NSIPS®では、前レセコンで培ってきた独自性が失われ、調剤機器との連携に支障をきたす事が分かった。これには当薬局の内規に従った調剤や他のインターフェースを採用する調剤機器との連携等の課題が挙げられた。そこで、パッケージ標準の NSIPS®を解析し、データを再構築することによりこれらの課題を解決し、切り替え前の柔軟性を維持できないかを検討した。

【方法】パッケージから出力された NSIPS®（VER.1.04.01）に対して内規に沿った処方解析を行うサービスプログラムを開発した。この解析データを利用し、新たな NSIPS®の作成、他のインターフェースファイルの作成、PDAとの連携（WebAPI）及び薬袋等の印刷を行うこととした。また、処方解析で不足している情報については、前レセコンと同様に処方入力時に2桁の調剤用のコメントを付加することで対応することとした。

【結果・考察】 NSIPS®は殆どの調剤機器メーカーが採用するインターフェース規格であるが、その利便性を生かすのはそれを送信する側次第である。当研究では、NSIPS®を解析し、そこから調剤データを再構築することにより、検討段階で挙げられた課題を全て解決でき、内規に沿った調剤及び薬袋等の印刷を行えるようになった。また、調剤用のコメントを付加したことで、レセコン上で複雑な設定を行う必要がなくなり、これにより迅速な処方入力も可能になっている。しかし、処方解析を行うためには、パッケージとは別に自社でも医薬品情報や各種マスタ等を管理しなくてはならず今後、これらの管理の簡素化が必要である。

レセコン標準の NSIPS®を用いた調剤データの再構築及び考察

栗原望*1、神野統尚*1、本間丈士*1、
西本圭一*1、堀口雅巳*1
*1 望星薬局

Reconstruction of dispensing data from NSIPS®

Nozomi Kuwabara*1, Kamino Motohisa*1, Takeshi Honma*1,
Nishimoto Keiichi*1, Masami Horiguchi*1
*1 Bohsei Pharmacy

Abstract: October 2017, a receipt computer system was replaced.

The old system was developing with the system vendor.

In the new system there was a problem in doing the same dispensing as before replacing.

Therefore decided to reconstruct the NSIPS from the new system.

Developed a program to analyze NSIPS according to internal regulations.

Create new NSIPS using analyzed data. And send data to PDA with WebAPI.

In this method we were able to do the same dispensing as before replacing.

But it wasn't recorded in NSIPS and there was also information which can't be made up.

Keywords: NSIPS, pharmacy, dispensing

1. 背景

平成 28 年 10 月、今までシステムベンダと共に独自開発を行ってきたレセプトコンピュータ(以下、前レセコン)からいわゆる「パッケージ」と呼ばれる市販のレセプトコンピュータ(以下、パッケージ)へ切り替えを行った。

前レセコンでは、調剤報酬改定や保険医療制度の改正等により、システム改修に関わる保守作業時間やコストが増大していた。調剤機器との連携に関しては、一部の調剤機器においてメーカー独自のインターフェース(以下、IF)を用いていたため、機器自体の入替えを行う度にコストがかかる仕様となっていた。

一方、パッケージの導入は点数計算、レセプト請求業務において大幅な改善が期待できたが、標準で調剤システム処方 IF 共有仕様(以下、NSIPS)を出力する仕様であった。

2. 目的

メーカー独自の IF を NSIPS に切り替え、前レセコンと極力調剤結果での変更がないようするために検討を行うこととした。

前提となる条件として、出来るだけ処方箋通りの処方入力で当薬局の調剤内規に沿った調剤結果を得ることを目標とした。これは調剤結果を考慮しながら処方入力を行うことが困難であり、調剤報酬の算定以前に調剤の為の処方入力を実施することを極力少なくするためである。また、調剤機器のコントローラー側で制御することも可能ではあるが、調剤時に過誤のリスクが高くなることが懸念されるため極力排除したい。しかし、レセコンから標準で出力される NSIPS は処方入力イメージであり、これらの条件を満たすことが出来ず調剤に支障

を来す可能性があった。

そこで、パッケージから出力された NSIPS を処方解析し、各調剤機器に適した調剤イメージに作り替えることで対応することとした。

3. 方法

NSIPS は当時最新であった「VER.1.04.01」を使用することとした。

まず、処方解析を行うに当たり、NSIPS に記録される情報の精査及び当薬局で採用している調剤機器の対応状況を調査した。

3.1 NSIPS の記録情報

精査の結果、下記の内容について情報が不足することが分かった。

- 吸湿性がある等によって錠剤の一包化分包調剤を行えない場合
- 処方箋上の同一剤(用法)を超えた分包調剤
- 患者の要望などにより分包から除外する薬品がある場合
- 起床時、朝、昼、夕、寝る前に関わらない服用時点の分包調剤
- 起床時、朝、昼、夕、寝る前に関わらない服用時点の不均衡情報

上記内容に対応する為に、NSIPS に不足する情報を今まで使用していた薬品マスタ、在庫マスタ等から取得することとした。

また、分包指示等の調剤方法に係る情報については、前

